

車橋晴嵐



一点の雲を嵐のふきはらひあと昇る月の照る車橋 見笑

重ねける雲足とみにおしやりて風は音のみから車橋 同

吹く風のはげしく渡る車橋晴るゝみそらにさゆる月かけ 系丸

浮雲はあらしに晴れて車橋一人月のみ渡る秋の夜 其道

風あらし折には人のゆきかへもむねのとごろく車橋かな 陰行

かきくもり心もうしの車橋晴れてうれしき秋の夜嵐 春成

晴渡る雲にあらしの車ばし渡りもあへぬ詠めなりけり 梅雄

秋来ぬと杉間を吹く車橋残る暑さを払ふすゞしさ 本也

青嵐はげしく吹て車橋ちり雲もなく晴渡るなり 同

秋立ちて風も涼しく車ばし夏のあつさもめぐり行らん 同

今もなほ名のみ残れる車橋渡りて来しか秋の夜嵐 一誠

天の原雲足早く吹風に日も晴わたるをぐるまの橋 鷲樂

往来する人やわぶらん車ばし渡る嵐に引れながらも 系丸

引かへす人もとだへし車ばし渡るあらしの声のみぞする 同

ゆきゝする人さへもなき車橋をはげしく渡る夕嵐かな 同

計ごと昔めぐらす車ばし今はよせてもあらしのみふく 鶴成

天の原月もめぐりて車橋渡る嵐に晴るゝうきぐも 花友